

**2013 年 10 月石原社長定例記者会見概要**

10 月 30 日午後 3 時から、石原社長による定例記者会見が、放送センター20 階役員大会議室で開かれました。概要は以下のとおりです。

<編成関連>

上期の後半、『世界陸上』や『半沢直樹』で上昇気流に乗ってきたが、残念ながら、下期のスタートに結びつけることが出来ていない。ただ、まだ始まったばかりなので、気を引き締めて頑張るよう現場には指示している。『半沢直樹』に続く、日曜劇場の『安堂ロイド』が、初回 19.2%、それから金曜夜の『クロコーチ』も、初回 12%と、まずまずの視聴率でスタートした。その後、若干数字を落としているが、『安堂ロイド』は未来で何があったのか、『クロコーチ』は 3 億円事件という過去に何があったのかという謎が、まさにこれから解き明かされるヤマ場を迎えるので、二つの番組とも今後の展開に期待したい。『刑事のまなざし』も前回二桁に乗った。内容については高い評価をいただいております、注目していただきたい。

プロ野球日本シリーズは、巨人と楽天の熱戦が続いているが、TBS 系列では、来月 2 日の第 6 戦を生中継する予定となっているので、そこまでいか注目している。

<『みのもんたの朝ズバッ！』『みのもんたのサタデーずばっと』みのもんた氏出演終了>
既にお知らせしたとおり、『みのもんたの朝ズバッ！』『みのもんたのサタデーずばっと』は、来週から番組をリニューアルすることにした。この二つの番組は、みのさんが視聴者の目線で、様々な社会的事象や事件について、直言するという番組のコンセプト等を総合的に勘案して、みの氏の意向をふまえた上で出演を終了することにした。

<営業関連>

上期のテレビ営業状況は、タイムが前年実績を下回ったものの、スポットが前年実績を上回り、総収入では、ほぼ前年並みで着地した。ネットタイムセールスは、レギュラーベースでは前年並みで推移、単発セールスについては『世界陸上』が大きな売上をあげたが、『ロンドン五輪』などの大型スポーツ単発が相次いだ前年実績には届かなかった。ローカルタイムについては大変好調に回復して、前年比 110%以上の売上となっている。

10 月以降のレギュラーセールスは、依然としてスポンサーが固定費を嫌うという傾向が続いているため、ネット、ローカルとも苦しいスタートとなった。単発では『テレビ未来遺産』の新規セールスに加えて、来年 2 月には『ソチ冬季五輪』も控えているので、タイム全体で何とか前年実績を超えるよう現場を叱咤激励している。

スポットセールスは、上期トータルで前年比 102.5%となっている。10 月以降も前年実績

を上回る見込みだが、この先、消費増税などもあり、今後の推移を見守りながら、機動的に対応したい。

〈事業関連〉

今月はじめ TBS はオーストリアのウィーン美術史美術館と 10 年間のパートナーシップを結んだ。今後、TBS は、現地では、美術品の保全などを支援しながら、日本語のホームページやガイドブックの作成などに協力する。そして日本では今後 10 年間に 3 回程度の展覧会を開催して、両国の文化交流にお力添えをしていきたい。

映画では、あさって「SPEC ～結(クローズ)～」を公開する。人気シリーズの完結篇で、今回の作品で 2010 年にスタートしたシリーズのすべての謎が解き明かされるので、是非、映画館に足をお運びいただきたい。

海外展開について。先月放送した日本ベトナム国交樹立 40 周年記念ドラマ『ザ・パートナー』が、ベトナムのフィルムフェスティバルのドラマ部門で大賞を受賞した。

ベトナムでは、これに続いて、当社のドラマの半年間にわたる集中放送が始まった。

今、『花より男子』がオンエアされているが、過去に放送された韓国ドラマと比べ、視聴率が 2 割近くアップしているようだ。

また、先日ミャンマーで、国営放送である MRTV とニュース協定を結んできた。同時に、現地で、民間放送のビジネスが急速に立ち上がっているのを目の当たりにしてきた。今後、さまざまな番組の放送やビジネス面での提携について、中期的な視野で話し合いを進めていきたい。

〈ラジオ関連〉 TBSR&C 入江社長

先週 1 週間が首都圏ラジオ聴取率調査ウィーク。期間中は 21 日(月)にクライマックスシリーズ、26・27 日(土・日)に日本シリーズを中継。TV 中継が高視聴率でラジオへの影響が気になるところ。また火一金曜日ナイターゾーンは新番組が OA されており、新しいファン獲得に貢献してくれていればと期待している。結果発表は 11 月 20 日(水)。2013 年度第 2 四半期の業績は、前年比で増収増益となった。放送収入はスポットなどでは厳しい状況が続いたがハウジング、イベントなどで増収に貢献。また費用削減も奏功し増益となった。

以上